

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4311010997		
法人名	医療法人牧念人会		
事業所名	グループホーム草佳苑		
所在地	熊本県菊池市深川400番地		
自己評価作成日	平成22年12月13日	評価結果市町村受理日	平成23年2月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ゆったりとした空間の中で、入居者と職員が共に過ごす時間を大切に、一人ひとりの思いや生活を尊重し、自立に向けた取り組みを目指している。又、毎日の生活の中で健康体操・嚥下体操・口腔ケアに力を入れ残存能力の維持に努めている。事業所が診療所の2階にあり、病状の急変時や緊急時も迅速に対応できる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成23年1月17日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設九年目を迎え入居者の高齢化・重度化に伴い、残存能力の維持に努め、食堂から談話室の離れた距離も手引き歩行で寄り添いの支援に努めている。昨年の評価結果を真摯に受け取り、課題であった家族会の発足で家族・ホームとの関係がより深まり、地区の文化祭に家族も参加する等協力関係に繋がっている。職員育成を推奨しており、資格取得に取り組む若い職員と、経験豊かな管理者とが一体となって入居者の穏やかな生活を支援している。階下の診療所との医療面の連携や法人代表の支援のもと、管理者を中心に職員の笑顔の支援に「草佳苑で元気に少しでも長く暮らして欲しい」と家族からの信頼が寄せられている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の現状に合わせた理念として「手と手のぬくもりを感じる穏やかな生活を支えます」「その人の持っている力を自然な形で発揮できるよう支援します」「地域とのふれあいを大切にした暮らしを支えます」を、職員の話し合いのもと作り上げた。	長年の入居者が多く高齢化・重度化の観点から開設時よりの理念を見直し、入居者の現状に合わせた理念を今回全職員で新たに作成している。職員は“愛 尊敬 感謝”のもと、一人ひとりに手を携え理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が診療所の2階にある為、地域の方が気軽に立ち寄るのは難しいが、面会や来苑は特に規制していない。本年は藤崎宮祭の飾り馬來苑時に地域の方に見学頂いた。又、地域の文化祭に案内を頂き参加できた。	区長から広報や地域の行事予定表を頂き、文化祭・どんどやなどへ参加している。ホームの“母の日”の行事や、飾り馬の見物に近隣住民も見学に訪れ交流を図っている。障がい者施設のパン工房との交流や研修生の受け入れが近日中に実施される予定である。	入居者の高齢化で出かける機会も少なくなり、来苑での交流で地域との連携を深めている。今後も地域の一員として継続した取り組みに期待が持たれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	申し込みの際や、相談の為来苑された時に、在宅サービスの情報提供、施設サービスの説明などしている。又、状況に応じて問題解決へのアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議録を提示し、全職員が会議内容を周知するようにしている。又必要に応じて、再度検討することでサービスの向上につなげている。	区長・民生委員・包括・家族代表に入居者が参加し二ヶ月に一度と定例化し、活動状況やヒヤリハット報告を基に検討・意見交換を行っている。又、委員からの情報により地域行事へ参加する等、入居者の外出支援となって反映されている。議事録は参加できなかった家族に郵送し、職員は回覧し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が取り組んでいる「みまもりネットワーク」への協力や、認知症アドバイザー養成研修の受講実施。又、市の生活保護担当者との連携により入居者の支援に努めている。運営推進会議には、包括センターの出席があり意見交換もできている。	法人代表が役員を務める市の“みまもりネットワーク”への参加や研修会の案内を受けるなど相互協力が行われ、生活保護関係の相談や書類提出で頻りに役所を訪ねたり、電話をするなど顔見知りの良好な関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室のドアや窓、施設の出入り口など日中は施錠しておらず、入居者の自由な行動が確保されている。又、職員間においても、精神的・身体的拘束に対する意識が高く、お互いに拘束ゼロの実践をしている。	身体拘束排除宣言を掲示し、日頃から職員同士で注意しあい拘束のない暮らしの実践に務めている。何気ない言葉での拘束についても管理者はその都度指導を心がけている。施錠のない日常であり入居者の見守りや所在確認に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令的な研修は行っていないが、資料として「高齢者虐待への対応と養護者支援について」を作成して常時閲覧できるようにしている。又、職員間の意識は高く身体的虐待だけでなく精神的な面でも十分注意した援助を実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度に関する理解はあるが、現在入居されている方への必要性がない為活用には至っていない。権利擁護事業や成年後見制度など必要な時は関係者と話し合活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に分かり易く説明している、ご理解・納得されている為、入居後のトラブルに至ったことはない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	区長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族・入居者代表の出席があり、意見交換やアドバイス、提案など活発な意見が出されている。又、本年から家族会が発足し、同会での意見交換もなされている。	運営推進会議に入居者・家族代表の出席があり、意見を貰うようにしている。今年度新たに意見箱を設置したり、家族会の発足で家族同士の交流となり、“草佳苑だより”の第一号を発刊し情報の発信先としている。ホームと公的機関の相談窓口を重要事項説明書に記し家族に説明している。	今年度は家族会が発足しており、今後もこの会議を活かし、家族からの意見や要望を更なるサービス向上に生かされることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者は月1回の定例会議、毎朝のミーティングに出席し、職員の意見や提案を聞く体制が取られている。又、必要に応じて定期的に検討会など行われている。蜜に連携をとりそれを反映するよう努力している。	法人代表も出席する職員会議やミーティングを職員の意見・提案を聞く機会としている。食堂のスロープや浴室のすのこの改修などが行われ、リネン室に棚が欲しいとの要望には家族会の副会長がボランティアで設置に協力している。職員の資格取得に対し奨励・援助を行い、向上心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意欲や、質の向上に向けて、介護福祉士、介護支援専門員の資格取得を奨励しており諸費用を負担している。又、介護職員処遇改善計画もH21年10月から短期に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度毎に研修計画を立て、施設内外での研修や、同系列事業所への研修実施。又、資格取得への援助制度があり職員はこれを活用している。本年度も、現任介護職員等研修支援事業を利用して、2名の職員が資格を取得できた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会（鹿本・菊池ブロック）の研修参加や意見交換。熊本県宅労所・GH連絡会主催の研修参加等同業者との交流に勤めている。又、近隣の事業所ではあるが、必要時は情報の交換をし、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	H 19 年8月以降、新規の入居者の受け入れがない		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	H 19 年8月以降、新規の入居者の受け入れがない		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	H 19 年8月以降、新規の入居者の受け入れがない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行動に移す場合は本人の承諾を得て施行している。日常生活では一人ひとり、その人が今出来ることを検討し、無理のない範囲で実施している。買い物や、日常的な家事が主である。又、入居者と職員は同じテーブルで一緒に食事している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病気や状態の変化など随時相談や連絡をしている。又、月に一度は必ず報告書を郵送し状況報告をている。運営推進会議や行事への出席、病院受診時は家族の協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には在宅時使用されていた馴染みの物を置き、友人知人の訪問を大切にしている。又、他施設に入所中の家族への面会、帰省や墓参りなど本人との関係を大切にしている。	入居者の楽しみにしている誕生日には家族を招待した食事会を行っている。墓参りは家族が出来ない時はホームで支援し、毎月他施設へ弟さんの面会に職員と共に行く入居者もあり、馴染みの関係支援の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの対人関係を考慮した座席配置にし、トラブルにならないようにしている。又、自力で行動ができない方や、意思の伝達が出来ない方は、職員が介入し孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所開設以来退所された方については、その全員が病気で入院され病院で亡くられており、退所後在宅生活をされたケースがない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者毎に担当職員を配置し、日頃から細やかな援助ができています。常時本人の意思を確認し、職員の考えを強制することはない。意思疎通が困難な方については、ケース会議やミーティングで検討し、情報を共有して援助している。	職員は寄り添いの支援で表情などから意向を汲み取る様に努めている。会話が困難な入居者の手を取りゆっくりと話をしている職員の姿があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時本人や家族から情報を得ると共に、入居後は会話の中からその方の歩んでこられた人生など聞かせて頂いている。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝ミーティングで状況報告をし職員間で入居者の情報を共有する。その情報を基に一人ひとりの援助に勤める。又、個人の情報は個別ファイルに詳細に記録し、以後の援助に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で本人の課題を検討し、その課題に添って介護計画を作成している。又、介護計画原案を基に担当者会議で検討したプランを具体化している。家族にも本人の状況を伝えると共に、意向の確認や計画書の説明に勤めている。	現状把握のため再アセスメントを行い、ケースカンファレンスで課題や改善点を検討している。担当者会議で話し合い、また確立したプランを家族へ説明・話し合いを行っている。認定更新時や状況の変化時に見直しを行い、本人本位の現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日職務についてのスタッフ全員が気づきメモを記入し、それをその日の担当者が個別ファイルに記録している。又、ケース会議やサービス担当者会議で協議し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化に合わせた対応をその都度検討し、その時必要な課題を導きサービス内容を変更している。又、変更した内容は全員に報告し統一したサービスに努めている。。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントで得た情報により一人ひとりの社会資源を把握し、必要時は協力を依頼している。又、事業所としては消防訓練の指導依頼、出張散髪、行事の時の家族のボランティア協力等資源を活用してより豊かな生活を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は家族の承諾を得て、同敷地内の診療所をかかりつけ医とし、月2回の定期受診をしている。専門医受診や入院時は家族に連絡を取り希望に従っている。。かかりつけ医が階下にあることで家族はより安心感をもっている。	家族の承諾のもと、かかりつけ医を母体医療機関とし入居時に移行を行っている。月2回の定期受診や年2回の健診の他、特変時の受診や往診等、階下にかかりつけ医がある事で早急な対応が可能である。他医療機関の受診には家族の協力も得ながら看護職員等が同行している。受診内容は毎月の利用状況報告書の中で家族に伝え共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状態の変化を、ミーティングの中で報告し看護師不在時でも常に変わらぬ対応が出来るよう全スタッフが情報を共有している。必要時は看護師が同行し階下の診療所で受診している。緊急時24時間体制が取られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、入院中の面会、退院に向けた病院関係者との情報交換や調整、及び、退院後の対応について指導を受けるなど医療機関と密に連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ホームでは医療中心になると対応できないことを説明している。対応できない場合については施設の情報提供をしている。又、施設関係者に申し込み者の状況説明や、受け入れ状況の情報を得ている。	入居時の説明で医療行為が日常的になった場合を退居の目安として、その後の対応を家族や医療機関と連携を図り支援するとしている。看取り支援は行わないものの職員は緊急時の対応やターミナルについて勉強会を開き共通認識を持って取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は実施できていないが、ビデオ鑑賞による内部研修をしている。現時点では実践力が身につけていないように感じる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年2回(昼・夜)の避難訓練を実施している。事業所内では、二ヶ月に一回の避難訓練を実施し、消防署の指導による緊急時避難訓練も実施している。しかし、地域との協力体制がまだできていない。災害に向けて備蓄の確保はできている。	火災を想定した年2回の総合訓練と2か月に1度防火管理者の計画による自主訓練を実施している。防火点検にて調理器具や電気器具の安全を確認し夜勤者が毎日、台所の火元チェックを行っている。ホーム内は禁煙となっており職務中の喫煙は禁止されている。消防署への通報システムやスプリンクラーの設置、備蓄一覧表による備品のチェック等の対応がとられている。	運営推進会議を通じ地域へ避難訓練の呼び掛けは行っており、今後は参加依頼を通じ地域住民とのさらなる交流を図り相互が協力して有事に備える事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊敬」を法人の理念に掲げ、日々のかかわりの中で失礼のない動作、言葉かけ、介助を心がけている。特に意思表示の困難な入居者については、顔の表情や日頃の動作から気持ちを確認している。	職員は入居者に対しゆっくり丁寧な話し掛けや対応を実施し、トイレ誘導時となるべく耳元で言うように心掛けている。個人情報確保の為に写真掲示に関する家族からの同意書や守秘義務についての職員の誓約書、個人記録物の事務所保管等の対応をとっている。接遇マナーについては勉強会を開き共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の出来る方についてはその都度確認し、本人の意思を尊重している。、意思表示が出来ない方は、日頃からスタッフ間で情報交換したり、その時々に出される表情を見逃さないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、全体活動など一日の流れの大まかな時間設定はあるが、あくまでも一人ひとりの生活ペースを守り個別の対応がなされている。行動して頂く時はその都度説明し、本人の意思を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については、家族が準備した物や、本人と買い物に行き購入している。散髪は家族の希望で美容院でしたり職員がすることもある。自己決定が困難な方には職員がバランスを考えて選択した衣類を着用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	長年のかかわりの中で個人の嗜好は把握できているので、献立を立てる時取り入れている。器や雰囲気を変えて楽しく食事できるように努めている。それぞれの残存能力に配慮して共同で作業にあっている。	毎回ではないが入居者も職員と共に食材の買い出しに出かけ、野菜の下ごしらえや盛り付け、お茶入れ等出来る事を手伝われている。会話の中で入居者の好みを聞きメニューに取り入れ行事食(敬老の日・誕生会)にも反映している。敬老会では家族が作った替え歌を合唱したり、誕生日には法人代表から一人ひとりにバースデイカードがプレゼントされ入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嗜好に配慮して献立を立てバランスよく栄養が摂れている。食事摂取量を記録管理し、低栄養状態を回避している。水分は、お茶の他にヨーグルト・ヤクルト・ゼリー・ジュース、コーヒー、アップルティなど目先を変えて提供している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	殆どの方が義歯である為、夜間帯はポリドント液で保管している。歯ブラシは個人に合ったものを使用し、歯科医師居宅療養管理指導を受けた口腔マッサージの施行や、口腔内の状態観察に勤めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を基に、一人ひとりの排泄間隔を把握してトイレ誘導を行っている。又、重度の方の寝たきり状態をつくらない為にも、日に数回はトイレで排泄介助しており、排泄の失敗の軽減もできている。	排泄記録表により個々のパターンを把握し声掛けや誘導を行っている。ベッドでの生活が多い歩行困難な入居者へも職員がポータブルトイレでの排泄に努めておりレベル低下を抑制し入居者の喜びや自信に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介助時に便の量や硬さを確認、記録すると共に、食事量、水分摂取量を把握する。又便秘予防としては繊維質の食材を日常的に取り入れた献立、毎日の牛乳摂取やヨーグルト・芋・バナナ・豆類を使ったおやつ等工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月～土曜日まで毎日入浴準備をしている。その中で、一人ひとりの体調や気分を重視し、入浴して頂くことを了解頂いた上で支援している。又それぞれに合わせた入浴方で支援している。入浴は個別支援でゆっくりとした時間を楽しんで頂いている。	日曜日を除き毎日入浴が出来る様支援している。入居者の希望に応じ個別にゆっくり時間をかけて入浴してもらう事を心掛け、必要に応じて2人介助で対応し、汚染時はその都度支援している。浴室の段差解消に使用しているすのこも新しく交換されるなど安全面への取り組みが行われた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその方の状態に合わせて、居室で休んで頂いたり、ソファーで休んで頂いたりしている。休養中は光や音などまわりの環境にも気をつけている。また、夜間帯はその方の生活習慣に合わせて照明を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬処方情報をスタッフが閲覧できる所に設置し、用法、用量、目的など確認できるようにしている。又、新しく処方された内服薬の投薬後は特に状態の変化に注意観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が全員女性であることから、得意とされる調理、下膳、洗濯などの家事は楽しみにされている。9名中7名が90歳過ぎておられる為無理のない範囲で、レクリエーションや散歩など参加頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	意思表示のできる方が2~3人であり、ご本人からの希望が殆どない為、ご本人の身体状態や天候に合わせて散歩に出かけている。また、地域のイベントや季節ごとのドライブ、先祖の墓参り、他施設に入所中の家族への面会などご本人に合わせて支援している。	季節毎の花見や初市、ひな人形展、市主催の秋祭り等に出掛けている。又、区の文化祭へは家族の参加もあり少人数での外出を支援し、衣類や生活用品の買い出し、身内の御見舞等、外出支援を兼ね個別に対応している。	今後は地域の婦人会等へ働きかけホームで一緒に調理をしたり、話し相手になってもらう等、ボランティア要請をしたい意向であり取り組みが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状の重度化により、ご本人自身が金銭管理をされる事はないが、事務所で小口現金をお預かりしており、ご本人が希望される時は随時渡すことが出来る。また、小額の必要品はご本人やご家族の承諾を得てその中から購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の方針としては、ご本人の自由な活動を支援しているのだが、全体的に重度化傾向にあり、ご本人から家族へ連絡を希望をされることはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所が病棟を利用した建物であり、環境の整備に一層の配慮が必要である。職員は季節の花を飾ったり、月毎のカレンダーなどで季節感を出している。居室は南向きに面しており、日中は明るい光が満ちている。また、食堂や談話室の座席はご入居者同士の相性などを配慮している。	既存の建物を利用している為、入居者の身体レベルや安全性を考慮し台所のスロープをなだらかに改善したり、談話室へ続く長い廊下の勾配を無くす等、様々な手段がとられている。壁やテーブルには家族の手作り作品や季節の花が生けられ心とむ空間となっている。入居者の相性や性格の見極めにより席の配置にも工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の身体状態により一人で過ごせる場所を確保したり、入居者同士の相性や身体状態に合わせてテーブルや椅子を配置している。また共用の空間を利用される時は特に、トラブルの回避に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時、本人の生活用品をそのまま持参頂いている。特に思い出の品や使い慣れた物を継続使用することで安心した生活を送られている。また、居室で過ごす時間が長い方には、ラジカセで音楽や放送を楽しんで頂いている。	全室南側に配置された居室は採光が十分であり家族の協力により個々に思い思いの品を持ち込まれている。絵の得意な入居者は自分の似顔絵を大切に飾られている。掃除の行き届いた清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、食堂、洗面所など共用の場所は、さし絵、文字、標識で表示し、入居者が自己判断できるようにしている。又、特に排泄援助が必要な方については、本人のプライドを傷つけないように「さりげなく自然に」声かけ、介助を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容